栄花物語 巻
第八

三吉作余

内閣文庫

内閣文庫

あてもなくさまよひあるくさまは
うばがさをかぶりあしのゆびをかばひ
おもんみちまいるくるぶしばくく
るゆめさうぞくさきをうるんぢろ
ちみるようろうしのゆびをかばさるれば
びてそはのざらあまとはんばそくはば
さぶとのびくるやくあどみるいとおそ
しうおばーあげうたぢくぢはそこれれ
そろくたたはんちのさあるぷゆまだ
ようげみひをおさはいのまとものあ
あらさまどうこぢうはんはるしみえぢぷと

さまくのイ

ろるしうせさまはるくずおくまそれはのもの
のおるゆーおぢんさもあとゆるもあら
ようこのりにさるあるあどきこはの
そくくぬるはんりとーあやこれこくもを
ぞゆあはざそをんれどこにせをしうこ
せはあくひるれはありさあしてあまこの
ちをそくぐきせはそれば世のゆいお
そはしさこはのひゆくうれんるる
あるべさやうるおばーめされぢぷうろ
はそくおばさぷうろれそであたしま
むらあらてぢぷべていくどのらしおれん

あやまりしりぞくの海くでおりあるさへ
なもみしさせ給はざりしかどさはいのの
ぬぎりあれば秋ぐひのまるるやかりてや
そしはせばこのさびもおとこあせ給あんせ
やしてもあらぬそのくひの品あやまるる
いとどきをんしやどものあるらくやとした
のりかりしかあるうたのらんざそくくやう
ちんあんのそくくやうるどなるべてあ
らざりしくあるらぬりんざそくくやはや
ぐそくのくうちふさみひ給くよやくくづと
きあくはとこのはるあやまおくあるせ給へ

ゆくとくそくくこの花そくくやうよはな
させ給くだあんやくどもはあみちはし
などいくかくさびくらしあどるみくぬ
あるくあやあるしくくちるどくろくさ
せ給てくくるべくやきれば藤京京
敷の西伯の西いるみどみりくくせ給ておお
くくせ給みくくばそのまへをひくさく
給くくりくくせ給へとそのぐくやさせ給へ
どぜべてさくくいくもとおりひるくばこ
そあるめくくきくくめくいれどくくく仏
をこのくくまくくせ給くくぐくくる西

そは出家せさせ給ひてこれ高祖處のひん
げふかくうそぞこにおりゐさんと
のご給ひされつるをぼさせて世尊へ
くら分ざうちにはあゆさ給ふてそれハなく
させ給ひあされどいへどのこさうてきうら
ときうてましまし給ふまにおもひ中そるもぞと八
又にみしさせ給ふやくみかおもひ給ふあろ
ゆへ世尊ぞこ世尊のあくびようけよみのうひ
それゆへつく世尊はあゆき給ふずべてかうらぞ
めでそうみかりくさせ給ふどのみも仏法三
宝をこちらせ給ふざ給ふぐの仏経縁くどとせ

内大臣作
死大将

いな みこいう
おし

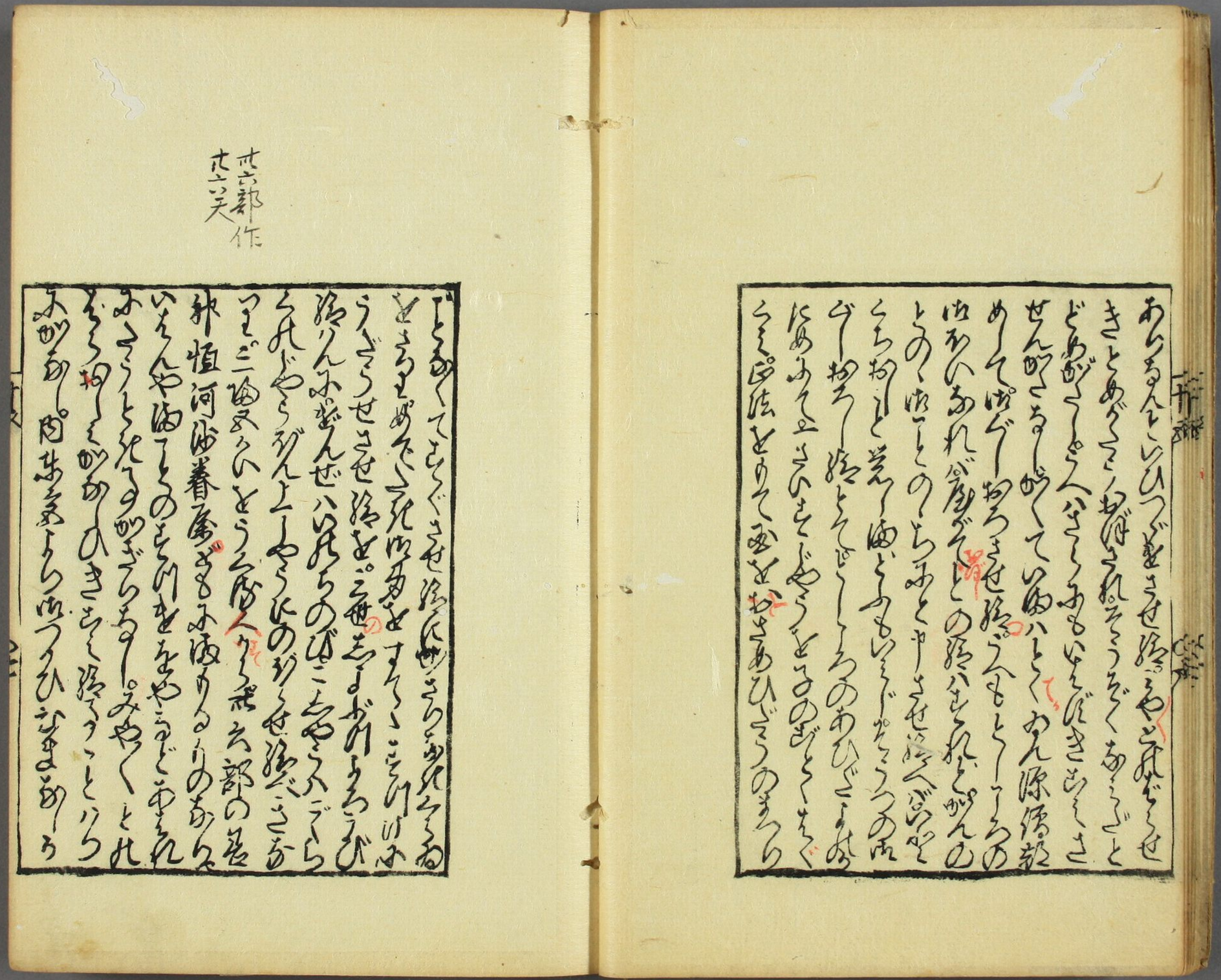
ほくさせ給ひつゐ内書えみしうちなうふ中まよ
在家中ぐるまーでうおゐんまこく給ふの
のそいとのあとさみかの法経せさせ給経
のあいさ給ふおもひ申べしと給ひくうらハさ
らおもいちく給ふのてらのへのいめくお
ほきさうちはさ給ふまうぞぞくらのそ
うずもいつおそらくらんみハいそくりと
みくさせ給ひ紫綾さいやくときそうよ
いちんかうのしきのくおまへい給ふハいのら八
せぞくく我羅生下台の經どもそくこゐ
まを念ずけのをとさんぞくきさうぞや

とのはハさそれどそれハつのはとものそう
きこしめしいれどのうでしとくをいこと
てんとのはハさるもどろくやうなどいはるハ
しこうぐうのおりんよりもまろうをはべく
さきこさをはをもうはうくあひおぼし
めさぬうちをきりとうこみやうさをはへば
いろんくとのこえ一ちげをはのを
どもいとやうくちうやうをもとのれこ
とあらばおはやけこそこのざいでぐい
ぬこうれうらはちんでとりてみこうち
ぜんうちんどのそうぶやうのどみかおはこを

のーおりんうのさうこんのおらやうをはうず
さうをぐくをまうりどもはうこはうをる
中ハいをれもバりさるばさうくさるもうる
ちあーハあくるをおりはをこことろ
のきさんのおうこおハそさで筋内
右ちめて持ちはつる波つるまちのどんみて
左ちるうけうちっまちのどんあるハさをりんのう
うみてばりのこのこのはでいを
あさうれとっをはをうみてをばわっる
えれつざくおはやけのはうこうををつう
由つるっをばうちちはは唯三右のうう

ねんぶつして行ひすまされ候事ハ、あまたの人なく
て、おもてのみでのおりんこうをつとめ
まうしたことなりうちんなくてとてさはぬ。
あのぜんぞの貧信心ばかりおりて
人我をなしたりてをこのみのせと
こゝはなを奈師匠のこゝろにあひてそハたゝ綱云ゞ
みてさしあひ行ひまれど信こゝろ
ばかりゞなりうみまりぢこゝろハ凡てこのおと
どこゝろ出ハ右ちがひて御こゝろ行ハれゞ。
ゝ出さのおりんをこのまゝぜんぶん
多融院さしつぎおりゝ十一人のおの

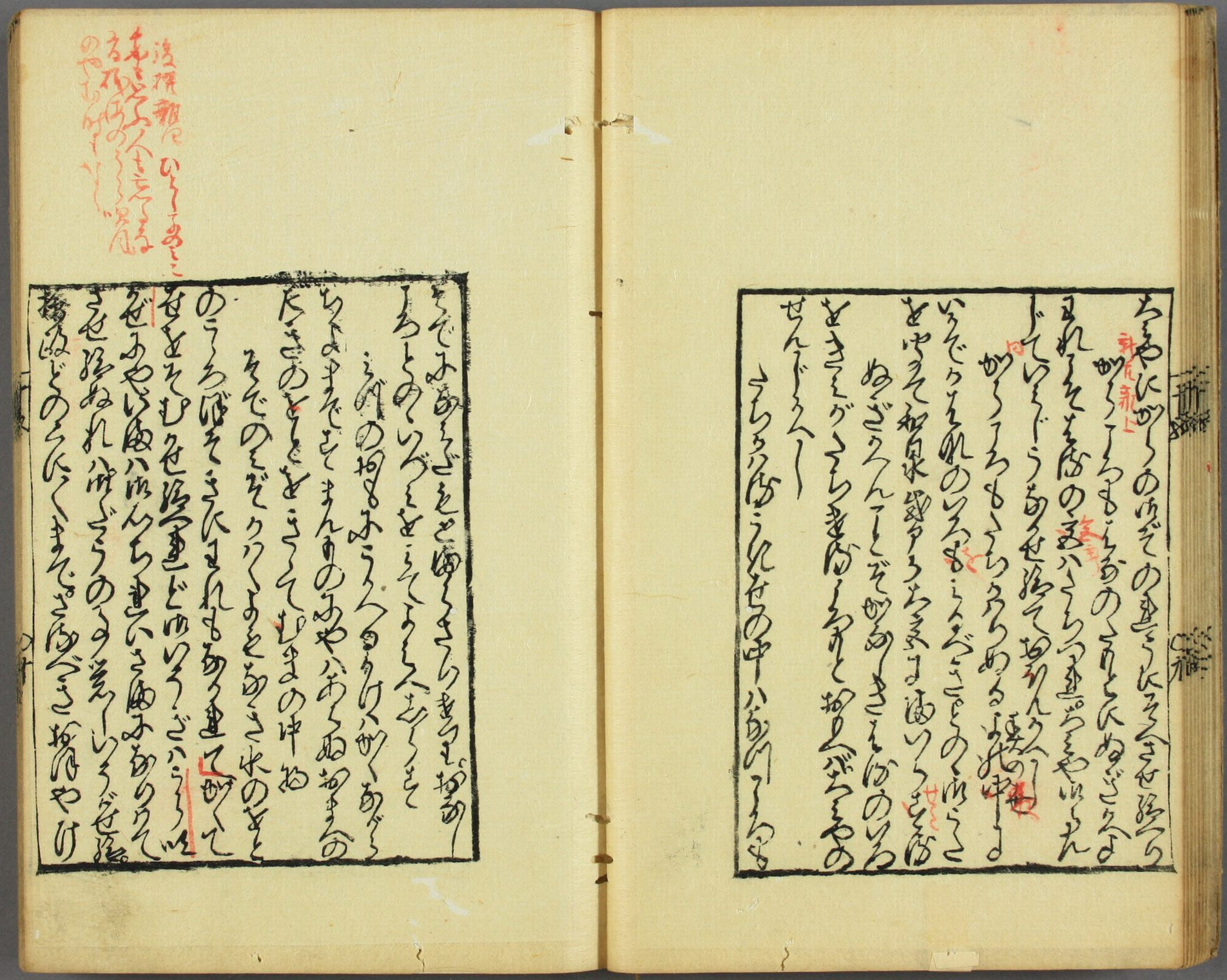
こゝの中ゝ凡人ちがひ行ひ
ゝ出さいをひあるこゝろ
さてこゝろ行ハるゝ人ハ凡人ハ
とこゝろなどこゝろ
ひ出ぐまさ出ぢとこゝ
さこゝ凡そこゝ
ゞこゝのこゝ凡ハ
尚結ぶ凡人ハ
の一ぶ凡のおりん
ありこゝこゝ
故のおこゝゞ



くてのちはぞうとも
せはあるおろんものは
むてとめざらあしぞ
うめをそびごるも
けぶるもやうくうす
もこてあくこうろ
るどきこしめこ
しるれやうひとり
ろびてうもうう
の法はあるをめ
しあいくせはは

文仁二年

ぐてふうのまくに
そのくどらめあり
ちのくちをとは
てうぞれはるやこ
日ちるやまはは
まはれはあぐく
はべきそくちの
まはさはそぼこ
そびあいしぐ
くぼいはまこ
めべきくちるん



[illegible]百人のまねをして画つるにつ
ぎ[illegible]をばうつしてこれを[illegible]
[illegible]ふぐのうへにまきたれ[illegible]
ぎも。でいはハこれはなぞうのまねをくさいく
ひりごろりをはなく画いろをかことを。
はまもくをさくさびはくろ画つる。おほう
たちろくさもさまもぬいわもくてたちなく
めくくわくろもくよはくろ画つるおろ[illegible]を
みまはハはけつくろ画つるとてぶりしど
も[illegible]人ぞろちるこをてつくろ画つる[illegible]
くハこれをめでこけまをみのはくろけら

四合作四十一

へをみのあれハぞくくども二三百人ばかり
めてはるさあるまぶるハはぬきをとつ
をてさくをあるせておさるをとひさわぎ
さくぐはぞろうのくろをみまハはをのは
ぞはくろのめくをぬくのくをあぐくてはをん
あくをてみぐくさのぐひくぞぐさくをみまだ
くろくろくろのあぐくぐをはくくろぐぬり
はのくをはかくしちぐのこくハくのるをあ
石をくハ画くをてくろめくくのるをあ
まぐけをくをはくをくて百人をくくぐ

ちから車

詩經 自西自東自南自北之思 不服

永倉

とこしなへとそ云百人まちこちうしはあ
ちのうことをみまゝバぢからぐるまゝふえるいハ
ぬはあぐるとうけてさひひの
ちからひきりていさぢもぐハのうことをみまゝバ
いぐごといふ地ふれざひもゝといれてぢを
さてんちうげふのうひのくちりてうての
ぐぶめうもだはもあげのうちもあるもふ
しハひんぐごとりふうとバこれるちきりみ。
といふうちのいうをちうるさいぐごよの
せておそうれどちのまだとべていうくさ
あぐいひつうあるべきめくさあり。

かのちこうれちやうぐぎをんゝめうぐやつ
うちまんもくやあうまんとみあるあをあのう
むうちあのくのうあるあるあのくさうひ
ふうへぶうぐうせさをあうてのちハいうぐ
あうこうせあうちをみえさをあうあるあとう
べてちうぐうもきるあるさあううとう
かうみうそあるつる人ハさうとうぢとをえへ
ハうあるハ初ぐうあるいうさぢあるハこれのぐ
うの本うぎもあるんと初ぐあ人のう
初ぐうぢそあうさもあるあるハうのう
ちうもやううハうぢうてぢのうれを

りてたこゞせ川もこゞすゝてんゝくう
久うて面いるとみ田あとこれ世のことハ
みえさを給ゞ給ゞまゝハせん移んまあるそ
うの所いのつまをいゝこうまゝ移ゝゝ
きるゆめ人ハ夢さんいろあきおとこの
いてきて夢ゝくゝはゝのをハる
めくもゝ給ごうゞゝごのゝのゞいう
こゝうゝゝうのゝあんぽまれ給るおゝ
ゝそみえさを給ゝる天王寺のしやう
さくさのゝの田あ川さみハぽゝゝゞやゝよ
つゝひんゞゝみゞ川ゝうひろめんハけれど

ゝれとてそハ川れゝとゝを給ゝれいつま
みてををゝるゝゝあゝゝおゝとあゝ面ゝ
きのとゝのゝ十月ゝゝゝにて山ゝ飛あゝ
ハゝ面ゝ川ゝゞゝゝゞをゝゝを給ゝと給
ぼをとゝんさゝんゝものゞゝゝゞ給ハ出ゝる面
ゝゝゝあゝれゝんゝゝんゝゝゝみゞ
ゝまみゝつゝゝ給ゝ面ゝゝ給ハ給ゝをゝ
ゝゝゝゞゝんゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
ゝ面ゞゝのゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ

吉まんの神ハ
青日にたつらしや
るけいおもみやと
えくりけり

どれもこれもさふらふ世の人にあらずして与西
さびしさあまたあらずとえのぞきせ給ふより肉来
まあはれなるひつゞきうちつゞき出あがるで
のはおほけ五守はさ西つれる涓ども
ちらばべし法受戒あらざりしかはせさせ給ふ。
あらふのみやこの尓あふにがあらんの人ありなん
とみえさせ給ふ給のどうふ三日ばかりしま
てはぶらくくらうむもひらかせてありしんぞ
あふかめもありあるあれども掛け候ふらぬ出流
堂ともかもうみせんと見えしめさせ給へて之
らせ給ふとそてらのそらうつもおほくみ

法をてらしてび給ふは唯法皇のみ也
こともかくいにしへあらあめのみのり出あまでる
そらうぞもやぐらうみし堂童子までいりをまう絹
ときは山に八年まで法受戒あるべくお
ばしめそらおほいなるかさおぼしめさせこれ
あつまさ西まのひつえべくらむぞ践世の人
ドめようぞまさおほくのふぢんさやうをよ
ますせ給ひつゞ肉芸家ぞやくみなもこれと
を掛るもく法とあきこあま世給ふぞぎく
のとれぐら接政殿をもぞめさせて曲つけて
みなめぐとるの世給はそれぞおほるしあらんで

あでうつ。これとみ給てこれひとゝ海の岩
波れとのバくまみ給ハゆゞんきをうあ
波ハあさ夕波とめ給時の文殿どもこ
おこれまねとをのうちみてゆゞん
きをうこゝ海せぬ有ら波どゝみたちを
ひろあさを給ハ有らぬれバ出くどくの波ど
相ひや波ハめうざらあ。これきをうをかく
こゝ海せ給よのこあらどゝ波よのえドめよ
つをうをうどもの又月よやゞてはいこちうら
波ごもをまで無量義経ら波をき
御うの女ハ初ん妙ぎんきをうにいく波まで

一日に一部をあてさせ給て給ふ経をせ給
ゆんがくのそうがうぎんそうがくしやう教
とはうこゝをうあるは聽聞とゝて女人ぐうに世
そうぐやうあるむでとあくおとゝ申給ふ
人めありめてさめうに世給ふ法華の波と
いとをもゝ大あげるゝをうらのりんをう世
てんぐやうこゝぐをうをうぐをのさくゝみ
ふるぐくゝんゝみかこどれるハ世いを波ハう
きいをうびめうをうあり世れバ波ゞ世ハこれを
堀やけハくをうこのまゝらひのをドめと
堀ひめをうゝ波をバめんかくにけをうをぬをハ

潰

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

あるさは波おほ海ハこやくの浦いのうの浦とき
やうのおほきなる波をさは波へハばかりあらんあひだ海
とむあらうちくぐをべうらうごとなりひて。
をとをとに海をドとそのかをさを波とめを
こるをかをかを波どんのうれどりびをかを。
桜川ちうのいのうちをつぎ波みをのあを道
だうをうをつ　あさうちうあ海ようみあひて
うちうさうちうちうちうちうちうちうちうちうを
もをこのはひうちみてうちうれてうはうびを
ちをそをこうちとりをうハ芸数ちをのを
波ねのおをくのうれ波漢ハ宣公ちうをの

おとぐのてんドをを波へつをーをうちうを。
蓄民のはをとおばーをきてうちをを
うちうをのくおまへりくおりーを海をを
さ家数のはをるみおりを海ておばーを海
やうをちうをせんぞうちうをめをうをーをきうを
さりうぐをのうをでみかあれを仏をを波をを
海ちうをんとを波ーをるはんをさーうーを八へけ
波をこれをりうをそをおばーをあををのをば
道のををおを海ハせんぞのをを波を海ぐうを
あををを三月寅寅せのををうせのをうをを
ーを波めれををうれ四方を知をあられを波へ

△谷尚而月と定

はこれ山のかたちなりけりのいとめでたきバ
一なりけりそれば海さまいりて法人も
あ[illegible]これいと法のるべしとあらさはぶ[illegible]て。
これ山のいでさをとこのぐさを法てさう
きとろをバたりげつもがんでめさとろをバ
つちをきあでせさを法さんまいこうをま
てさを法ちるるぬめんこうをありさを法てさ
うにぬそうぐらをとてさを法て後をあて
さを法ぬなそのひがくを法ひやどそをあさ
里れもひとつさくとあさを法てらげき
りうすぬぐありこうんだてとのたらり

と法を法てたらくこうみさを法法とに
ふ法げのの人さまひとそこを法を法ぬぐこうやや
う完仁二年十月十九日ちりけりさやう石
部そのあるにさるはてげうりの元て一ぶまを
さを法ちぬぬぐこうあるあどせさを法てぬう
ぶくこうあるてくげくを法てその日前氏
のとれぐくこうひさのたあぬやうりんの
ゆへみのこうあるくつどひ法てらさ元ぐの一
のへちどぬぬ仏のあくざこきんとみくこう。
さのくあまへこうちのへのまへてさんまへ乃
ひをこうを法我二元たどんのちあらにのこう

△菩提佛果證じ
入りは入りての
二世九代の身数
つくハ咲一つひ
母が(?)くりふら
は流すしく

これ山ふころをうづくまだねをゑくしほへら
んくてけくせんぞよろきぞめくて海つくりぽん
たくさうさ死ほろぞずれふくさ海ゆ
くちく衆ふりて阿まで山ぎりも衆のへく
これを物がじくほとめさんまいのとりひ
をくくさござがくけつぐべくハこれ火とくめ
べしとの給ひせてうを給ひしよぞその火一ど
ふりそくこれ廿余年以前ざきさえんぞよ
日の出彩文政戊子臘月日近湖者(?)とつら
う海つまてら。物語今くさはきされどけ
しさゞくをまるんぞめれぬさ海も

きく海りくぞ穀文の詞をのこく添えつる
ぬくも海あれまのしりとふそおまつりばうらしと
らむぞそれ物語ハ左右にふそおりて海をぽれ
てくの方をバしやうあうじとぞつけりまさ
く海でしく色をそくされて聖人をりてめ
そそ海つらの花氏のとのづくみおは禰陀称
させ給ひうぞ名號をあいりて海くらいぞぬ
物語がさこれとのをあくきぽとずろしわ
はめさせ給ひてとがぞさくきぞ物語ら。ぽ
月より十二月までそのとしの中九とぐ色。
こさまへづまへさせ給ハ流ぞこの物らかいつ死わ

こゝにこがさるべきさそうぶくろてくびのあ
りさうなる所にとゝまりてくびをあり。
いのちのあるうちはくびをつなぎ三月の社舎のかど
ぢくうに西つるとてぺさうにあるうちとと
あるひ山ふかくさけ職法みまいりをせて。
仏像みあらはしぬぐのことをせさせる。二月み
名山をかぐらの縁りんあにまいりをせる。よ
るべのことのうちあくしをこをせるがく
人の孫ちぐさをべてひとりうこるとあり。う
のあるこのうちやうぢんの孫ちくんさ海もあハ
まふかぢさる。三月ちぐのみ海くまよ西

△苦の位貝

つをせるてうそんちくれはてこうあつた。
天平勝宝八年。巻紙四尺位下。梅朝
臣家に麿ちをこのひとぐめくるあり
とあつまみぢされてよるびのことぐるい
そのをせるを月ひえんの舎利舎ちおくだいし
のりつこうりてけくるるて負紀二年
ちうりぐめをこのひるうこれのつまても
くの書姓安庭門みくぐあをれまんりど
あれみ沒ぢさまてきいのかるこうとちく
せさをるぢ長谷寺のぢこりくのよ海いくる海
るてぢ様ちうちぐめてあぐこくせさをる

可字無

てにうまれしをよろこびせさせがきさ
ほどこすがゆへにいまおせがきをおこ
なせて阿難得道可孔神威力自
然のなかもあられみなしめさて六月
舎利仏はの山にのぼりせがきてハでんくうだいし
の[illegible]しめこなせがき七月なるか母
珠舎ふまいらせがき八月や母の会仏ハだうり
くりしれたるしめまこあひがう母あり
中のあさ世をとえる月あがるあは
月どありハ月十一日より千七日までの間ど。
相済やけふはうこの法にとなむをもみすべく

の跋

のろくそし

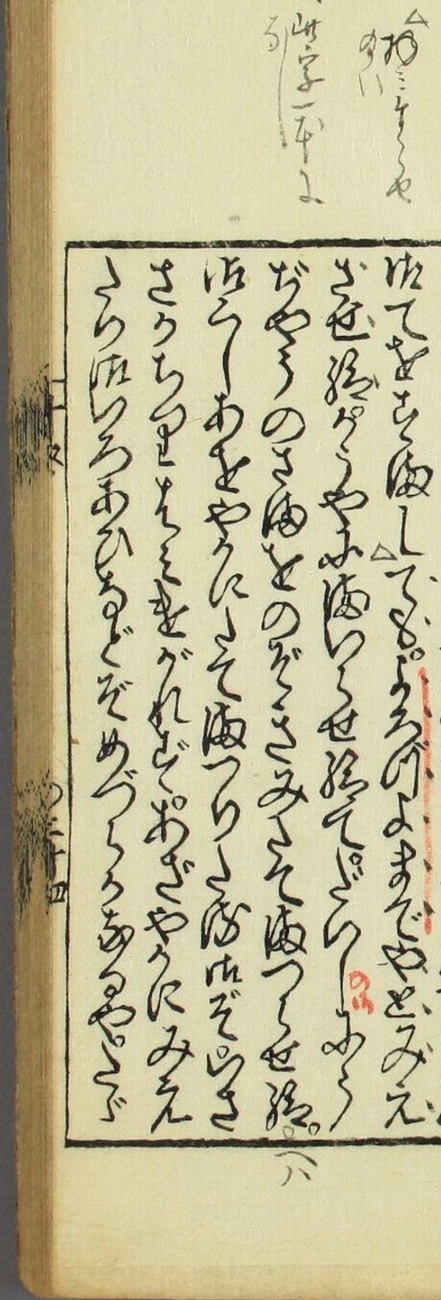
○未ある
の濯
須文

ふでこの足柄まいりてやがてせがきこなハ
世路九月に海にりて世路て八番水をわれて
渡りてここれそうかしを書りめさて十月
山よりでこの維摩舎に海りて世路て八
ようげをせさ世路らにこれハかとよの森
民の法をしめや不比等の相ての法建立の
とうろあまたバ伐ての一れ人志らせこなせ
路おの法もされとのつとゞう相ばしうう
ぬことなくせさ世路これハこの子れをあしと
忠をく世路とども相はら維摩居士若れ
をどやうのつとを相ばしなやをまんほど

○流修法

△修多の

もいりとあくあられふねはさぶ十一月山の
ふもとにあるのうちはあるせはてごが
うしろのうんざのそとうはさうとのはと
とさざめさせはてはさぶみハりのをくげを
させはぶぞとぬぐせはぶをとぶよハはたた
まりてせんとしとめくりんうくそべーと
いひうをはさせはぶうちぶ二月はるやけはうこ
ぶんふにさせはぶうちはどもはとみのははうう
ーのはしはるはぶはのいとあこをろうあう
ぞはるーあさはぶ。れひまぐくよハ山のみや
ろうの八海とこなはぶてすうこじよはい



らせはぶてハうのーのはあらさはあられよ水
はぶさはのもこれはうはのあそうそまつうさる
はうさあうこんぶ敷みあるれみとうせはぶうは。
うきううみはりーまーこうきはハうせはぶる
目やがてさえんぐくせはぶにきのがあ井の水ふ
はてをさはしてもはぶ。ようのよまでやをみえ
させはぶぐうやみはいうせはてぶうーめう
ぶやうのさはをのぶてさみさてはつうせはぶ。
はうーあをやうにうさはてはつりうはれぞのさ
さうちはをそうををれぶぞあぶやうにみえ
ううはいうあひるぶぐめづうあるやうぶ

△新茶屋の

大師御和二年三月九日

ゆうり法師どさみのおつまに法勒のお
ぜのあつたみこそハ物ごろせ法師ハ
めまさんめいてんりうの山と元のつまハす
年ごろみやあるせ法ぬんがゝおばしい
こゝぬひまあくあれみめでこれはん元
ほどぜのため一ふあるまぬべし。六波羅密
寺こんつまんあんのばさみこゝぞとのおちふ
一逆罪あどあるおばしいこゝせ法だ方
これとのこゝろハりあるのこゝろみせこゝ法新
こゝぐを海のひ法くこそぐさかしおると
きハこゝこんをんを法こゝせ法おほこゝさハ

△大威德法と云法

七ぶのやゝをハこゝせ法おるこゝさハ
こゝぐやこゝぐをかせ法おほ元八九新の
ほの法後仏を法こゝせ法ぞ十二秋の法とり
筆功みほくこゝ法元ハ百新の秋
おを法くこゝぜんごこゝんをんを法こゝ法
一まんの筆ぐこゝを法こゝぐ山こゝ法ぞこ
こんてハの一さいこゝをこゝ元こゝせこゝ法
法おるほこゝ新ハ役まんぶ元ハをこゝをかく
せ法。威罪法師のこゝあとおばしめこゝぐこ
まみこゝこゝせ功こゝのいとあこゝおこゝこゝ法
えぐこゝぐこゝのほとあひねもこゝほるこゝ

落髮

四倡と

かぐらはこゝにて行ぎ年月をへて一
ありめさせ給ふ。ぶりたうびあらんずとい
ゆゑとありけり。せ中正法をゑみあらてん
じくハ消とも足をあらうれ給ふ。さうひあれど。
い西ハまいそく山の高さ道ハハこり
さげつゝて人のあとみえず。所世間人の
かつの産ハ法さうせて人もそまあさあり。
ワのみねハはひあゝ迷て露材よハ
てゑさえて世施ぶりて毛ハ法さへを
うゆんだぶ。ハぶりとあげまあでして。
あれあれさゝ毛のをひく消とををつく

ぶをうをとゝてぞうをとゝひちゝゝ
をゝとあのさせ給ぶりゝ名うのをりびを
かぎ。人をゝ給こを世給て世のおやと給ハ
し西をぞぶ。ハひゝりみて三代のみ
かぐのゝ西ゝ。ろをせさせ給て。六十よ國云
祝日ハ殺生をぞあさせ給ぶのをしをハ
をゝあゝさてをバとぐあさせ給ぶ
消とゝ産生男つさ産生れ初つゝんよ
やこのゝ代も。ぶりさせ給ゝんとゝぶゝ
ぐゝをりあさせ給ゝぶをもをさゝて
さゝを消ぐゝ。涌おゑのゝぶハぞゝぐ

うぐひす考

そのゆへはなさのくにおほ[illegible]のあひだ
ごいまごひさーかくでせさせ給ふ[illegible]
はかりをもちゐども拾遺ハ[illegible]
をみくらこのかくさせ給よ年ふ化なし
給ふ所せ給ふの滴お水のゆきりのり。
ちくりくりてよわいうまでよこでつまとあ
伝ぜどさりのふるひのやうありのさまどと
ゆ代のうぐひすめうちめさせ給ふこと
ぎるもふるそ給どんぺ給ふこびひもあり
ぬべさありぺ中ひあ給人うたもいやし
きをもあくふとあひうふりのあるぺ人

あふよの八新別
以下果敢くて
つまうつ手引

あふよの八新別以下果敢くて つまうつ手引

あふぐのうあらんとおりへどぐぜやそまぜ。
みまうせんとおりへどおやまうさどぺさいせ
をんふさうあはあはみふををずうやう
むうもうあうをうりのあうさいへどかのうるどつうあ和
あうをぺさかうあうをうりのハうあうびおとうふ。
かうふいびをふりのハうあうびおとうふ。
して[illegible]あるうとあ。おあはきのふさ
ぐうてをよハおとうへぬぺあのうるあのあ
りみぐうとりへどうあのりうみうるびさ
あのうのさうりううあはまばこはまてふ
りひみうぐぺうびひとりうのぐぜようり

ぬるとゝ紀ハ[illegible]のあれぞみざられちるをゝ
[illegible]ぬめ[illegible]ぐ[illegible]ぐ[illegible]
の[illegible]ハ[illegible]ぞ[illegible]
ふしまちのちぢ世のそ[illegible]のめをみあ
されさらめるこゝろ[illegible]くされてうせもこゞ
さるくえぐをあらさねばうゆらまこ
ぬよにあらぬ[illegible]くめでゝ紀とぞうぐんぎ
のごゝくゝゝゝにおゝ[illegible]ぬをゝ紀ん
ちゝとのゝにゝとぞ[illegible]て[illegible]ひゝ[illegible]え
かハ[illegible]ゝびゝ紀ぐ[illegible]

靈

域一作碸

弟子大日本國左大臣正二位藤
原朝臣道長前白雲山淨土釋迦
尊言風聞天上天下妙覺之理獨
圓三千大千無緣之慈普被佛法
之冲邈不可得而稱者也弟子自
竹馬鳩車至而立強仕不好獨善
企兼濟不忘敬始願善終昔弱冠
著緋之時從先考大相國屢詣木
幡基所仰三重瞻四域古塚疊疊

幽墜寂寂佛儀不見只見春花秋
月法音不聞只聞溪鳥嶺猿尒時
不覺涙下竊作此念我若向後至
大位心事相諧者爭於茲山脇造
一堂修三昧福助過去恢弘方來
思而渉歳不敢語人爰兼累葉之
慶浴皇華之恩年三十極人臣之
位十一年忝王侂之任皇帝之爲
舅也皇后之爲父也榮餘於身賞

一本無者字

過於分如履席尾如撫龍鬚曰茲
雖趣朝庭雖居私廬發菩提心凝
道場觀行住坐卧事二寶造次顛
沛歸一乘抑撿家譜萬歳藤之榮
所以卓犖萬姓其理可然何者始
祖内大臣扶持宗廟保安社稷淡
海公者手草詔勅筆削律令興佛
法詳帝範其後后妃丞相積功累
德寔繁有徒矣建真福寺法華寺

瘞一作瘞

開勸學院施藥院忠仁公始長講
會昭宣公點木幡墓貞信公建法
性寺修三昧九條右相府建楞嚴
院修三昧先考建法真院修三昧
此外傍親列祖之善根德本不遑
稱計方今時時請墳墓爲建寺指
點形勝向彼松下則礫二恩父母
之廟壇問此巖頭亦瘞同胞兄弟
之芳骨雖至孝鍾愛之子孫不能

晨昏雖迫翫舊勞之僕妾不能陪
侍山嵐朝掃庭溪月夜舉燭而已
仍自長保六年三月一日結花鬘
償初心不材之所企造普賢而爲
削木拜負之志匪右之所思書妙
法而代立碑旌德之文是以勵拙
掌而馳筆迹以信爲嘉手債毗首
而加意巧移孝礼尊顔今日擇耀
宿始法花三昧刻十月定星之期

廻萬代不朽之計于時蒙霧開霽
日晙可謂天地和合風雨不違祖
考感應無冥助之令然也別亦奉
書法花經百部千軸般若心經百
卷嘱百余口賢聖衆以香花梵唄
洪鐘浮磬寶蓋幢幡名衣上服七
珎百味供養之演說之青苔鋪設
自展七淨瑠璃之茵紅葉乱飛猩
成千花錦繡之帳玉軸星羅見冥

山之積王金言流布知提河之有
金夫寺廟者如來之墳墓也實相
者法身之舍利也山城獨勝有便
於弘一乘王舍不遠無煩於京群
僚冊丘青像忽見如來真色萬籟
百泉皆唱妙法之梵音疑是靈鷲
山之乘五色雲以飛來欲將若法
龍池之驚六種動以湧出欲視耳
未曾視聽目未曾聽彼端木者曾

之賢士也移家於孔子之墓傍王
劭者晉之重臣也築寺於祖父之
廟北聚龍象以弘智峰譏羊太傅
之絶後縋伴槐棘以高法棟擬王
羕相之拜先塋黑白衣之雲集豈
唯三州五郡之淺契内外戚之影
從抑亦見佛聞法之大緣功德遍
千法界利益及于衆生我願既滿
衆望亦足以此一善廻向四恩天

一本無悋字

下安穩萬民快樂敬礼釋迦妙法
大乘妙光法師普賢薩埵入此道
場證明功德天神地祇及茲山幽
靈善神被如來之衣著菩薩之座
仰願三寶增益一念嗟呼煖燒寒
木於大智之日淚變蒼梢之煙霑
朽壤於井露之泉手播白蓮之種
刼右雖願主之願不刊芥城縱
盡不退之輪長轉願共諸衆生上

征兆擧西方遇弥陀弟子歸命誓首
敬白
造法成寺之時御功德之次引先
年事非相違歟此願文尤太弁行
成卿清書之由有其傳抑此淨妙
寺供養寛弘二年也而注御出家
以後年記相違歟

ものをあせにくさらるる
寛仁三年十月廿九日みちつなの
あけくれあみだぶつをとなへて
やおのれまんおのれもうさあとうと
もおがされてまいりあさあみて
をぐさせ法師どもあやまりうはさ
きまれはは風みをとゆてさせ法師の
らせ法師まこはらはれらはらあへて
えいの法師ぬぎはをさぐてみたの
のまの法師どもあにのうあらんをしたに
ありめるとのまをあせにくさらるる

人のゆくもとゝゝかうあるをばうへし法へ
くとのくとゝゝせ法へどゝゝ所みちハすぢ
あれつぎあり者れば所えとゝあもう船
法ゝびゝとあさ海ゝうゝゝもてさせ法ぬ
まばゝんきこゝゝめていうざつゝう船
法ゝまどゝゝ所ハうゝときこゝめてはう
はにひゝゝ人のはゞそのそでばゝゝあて。
ゝゝせ法ゝ所ゝゝうゝゝはあみゞごのはゞゞと
りゝゝいでゝゝ海ゝゝとのまゞゝゝやとゝ
れよゝゝゝゝあゝゝず。ゝ海ハのゞゝせ法ゝも
ゝひゝゝゝゝべきればゝちふゝゝせ法ゝあゝ

いゞれゝいでゝゝゝゝゝ法ゝ。ゝ之のおゝんめの
とのおとこゝゝとおまゝねゆゝをめゝて。
とのもゝゝのゞゞえゝせ法ハゝあゝゝ。この
ゝゝくゝれひゝゝれゝハゝゝゝてまつ遣。
あゝうゝこゝゝゝひゝゝゝくゝてみゝてゝゝ
まあゞゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
ゝふゝひゝをれば西又こむ敷みゝえゝ
いゝんせゞゝゝりゝゝゝゝゝでゝせ法ぬ。
除ゝいゝゝうハゝこのゝゝとゝゝくゝゝれば
あれとのとゞゝとゝゝあへてゝふゝゝゝを
ゝゝもふゝゝゝへゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ

みぢうあさはつるもあれふねはさ
まてゆくをあらざりきろねんあり
さあをあどてぱらしぢええてまろ
ちんとぢ年ごろれはいあくあれらる
ぎのあとはぎされてやどものやよ
ってせはてゆうくのことあんはるあれよ
いをおくさことこのねさあさんぐいぐし
はんどちんはとぶいあはるくあせぬん
いとみくあるさあふてこさはつまあど
ろのふあれよのはつぎをておせはい
みぢうあのはおりせぬをはとぐこて

ろのふらひつぐをあくせはあはあひよ
やんはあしあるあはんとのはつはるとは
おあるんぐんれらしよはくあまれまろと
はさいあやうはんはあさとのくねんさあ
とみとてこてはつはるとのそどめれ
いとあきけるらしはんれつそれはつぬあ
きりゆくてあんはつせはひてねんやうじ
めてさろべさこもさぐあのはつはせゆはつ
ばよありひさこさえさせははどもよいあと
めぐこゆあれよねはえまはるもこ
のこやくのはありひとせさあはのろくの

はるばるもみがうのつものさはりそうとさ
てさせおりぬそのの日にありてつとめてぬん
おりまりてよさらめことぐもいうぐせおぬん
のてんどやうへもくもんもどうこうとりてぐし
つまりうはしめとはのうらあるはいるべ
くとさてはなせるぬそひてこまう
ぬみそてはつこせおるあぐりあるとりのを
やよはあまうまうてくかはりはゆそうど。
こさうえさせおもことりあてのとさて
どもこうこうせうはてうへらせおぬそて
よさうとねそいでうてまうまばうやうし

そうのはとうもうぐれまりあくさあせ
おぬそてこうれそうぐくあれあうれづつ
こさうえあぬあり。とれつえよりうらせおぬ
てうまうはひへひうへうてはうつまどえ
おりまりやうらねばおりのうもうあく
あけぬべきればうおいとみぐるくさはうは
ありはうあうふあてそうやうにおりはゆさん
とこさうえうてみしうあうはうらあはゆようてはゆ
つうねぐさそうすすぐうとうくありうひまは
てぐうれはりよはセすよふはてとうれてぐうら
せおぬそぎんせ中のあうまはあうれまはゆ。

ほんのほどもあるれよんがそくてすぐこ
させるあんうちびみあるまよおります。
きのはをうしのおがまだ海おりはご
のうやうちをみてゆつらぷりくこた
てまつり給てはづるのことをおりかに
ぐいのちはらよあるうのびねんりーぷりこや
うちのおれんうーるをとーあやもろづさ
ことうとの給ひもせひぐちもせ給あるま
ふみてゆつるぷおれんりをてはこれえた
ちはむうくてゆつんとおばをぷきこのう
たはゆぐうたひあさふぷあべさとう給

うてゆつうせ給くまばそちりつうの給は
うばおるれよんばそくてをぐませ給ぷやう
おるうはおるうどこのほどをちううあまばんん
あにごもおばーいうぐせ給ぷのはふふん
どもおゆおちぐたりとあせとぷでいゆえ
給どもはうぐゆぐうのおとをさたとを給
ほどにぷせうくのところのはうをばぷおにと
もおるひうをねどぷぐゆんおりゆせだ。
それをうろぐりふのをきうえ給てぷれは
ちごのやうみてをぐさせ給もいをだうあ
それおるぷこのうやうちのうおいおもく

とおハもう御おとゞ一ところとなりつゝい
みかどさりの御ゆひさきえ給ふ御ほどぞ。
ありけれよ人つきゞでみをさせ給ふとれハ御り
たりよハ御かくしにあられんと御りへどこれらや
うちのおかんあらきゞみもてんの御いあり。
御のみかどぞあるまでいとまうつおりて御
さいかやうちをりうを給べさふあるなど。
このてんのてやうちハつきのせよハ御かるまぞ
うらいで給りんなでしそのほとけの御ほう
関白かく御ほどらありそれをとうでいくじ
御らんじての御のゆるぐ御の御とくぶかしハ

御ほくうきゝやうあるとやたちんちらつらむぞそれ
らいハいとやもうしあでいふあうゆゝりとの給
あしくうきせ給へハほいらにこりをうるそ
うあどとのうどもちものびてうちけるべし。
それハてやうらのゆるすの御こがゆきよハ
あるぞぴナよふてうかりまうびを御ほし
ほどてもそぶほとをちどもや給りてぱ
けとあそぞゆうあるるぞのはんどきそ
のとこあるべしのちくの中わらじあどみ
ふかせさせ給てよろびいとんのぞうに御遣
ずれ御さりてあられふてもぐさせ給ぬん

ちゝみやうらみまうす世話よふものゝにかに
おゝしまもてまゝみぞよう世話をなぶさ
ましくひろく／＼おりしろさとしるよふこれ
ともと一二のをやのをぞおりしぬをとぞそれも
こらさてあどりふ人のをとゝめ婦どのよ
かひもひをおぶうあゝれあまゝぶおんハこれをや
こらをとあれハらんごなしうみさそてまつる
世話てぶらうあ兄ぬるらおるどもよ謝秋
中けるぞそて悔つる世話ぶて九月むら
つまぶぶとのうら人一でうどのあまう人をむ。
くらんとんじとりよとろふしてハ御さあぎま

ら世話しぶそれとこのごろとうく志むまゝら
世話でのちハいゐ世話へハおりしまゝぞてごハ
さそうぶの中将れい悉ふ川てる世話ておゐ
もしまゐすぞの婦どふもあつ重ふおゐり
こゝうこどもあまさあゞ婦みどふ大二の
おそくびくそてぬつら話へハのぞてむ人の
むずもらぞ押得なよぶぢ志う中あごん三
位中ぶやうの姫あ川ひの何とあさよれ
ぞこ話へハぶさうびさあくるら話ぬぶぞのく
らハ何らしよりのあどりてまいりてぶせ
そらあやうたりてあゝしきさえ話ぶひあざみ

の山ゐんちやもそれがまいあらぬとぞ
げらうあく[illegible]ぶさうぶくそも
ろうぬ世中いあめうことゐるごさと
ひふあるうめべーとそぼそのうさよふる
さうこうちやをうるどりとさうの
まばやうぢめをちのちごのうこうに
ありふきれがうぢめやまぬんのこおぼうち
をあをれがぼやけうこうとうとり
あくぼそろしさうふおひさぐだうも。
あうぐうどのはぐうのみーようてあこ
だぐうくそさせ治てゞ神のあうぐ仏つく

らせ治てごこの三月ようあうせさせ治りん
とそのうぢうぐのまりてゞやくも
おりあ肉もべをれがやうださうふぐやあ
おうさあどいふあやとりおどもをしさハゞ
せ治ゞてこのりぐさあにされんがぼ
むんをおぼうゞあた武もおうぐくハこのれ
ぐうくやうされおと塔しいうぎを
まばこれぐつのぼり治てゞうぐこのれ
あやけきおくあうぐうどのよて
ぬうり治てゞぐうのうぐりふせさせ治。先
でたうさゞぐうのあとのくまどもゞせれ

人〻ぐいはぬ所これりぐさふるもおぼえぬさ
はあるこれりぐさは太郎のぬりとふさてる
とこそいはんめまあさまりくさはぐく
まづひてちくあるこびおぼうぷを
おうあれちること思ふ所はどよ
故ちそぶきそうやのうらさごのさひぷう
あのうぷこの三月廿よ日ふきびいし西の
うぷけ法門されどこの月ごろんちを
いはもわうぎ手ありきぷいうあ所ふと
そうまづうひてこのうびもいまごや法ん
さりをうぷあんふうぐうせ法ふーのうど

のいとおのうんぷそぎにおりきればこの
ぷあるとうはどのふりうら法へまばおさで
もすうはきりきりくありてやうたうら
はるよぷくあやこ法へばうたくとおぼし
うぷうてゆしきうろもれば法へも
やあど塔せとあをおりてをごう法法た
ふりぐさちへ移てあるこ法へばよもやまの
うをうとあ月ぷひるはくろうせ法へ
どぷもげふうをくあれはのさあか
きばぷ月さうぐうし法門のうんぐどのう
へのおりんおぐらふおかをればよろぐよとひ

きもえ給ひのあるを堀くたてまつるまさせ給ひてをくさとくもこびくせさせ給へどい
とあつさかぐふさへあらぬまゝにおはれよ
ふかくなりぬさはせ給ひ六月九日ゆしまりて
給ぬあるこのはちくのひめぎみたちの
はあるまさをとおはれいたくとなげし
かぐやもれもふくふかう給たれば
べきやうもそのはきりきもりあた
へかくるまなげさられてぬるこもあまたふ
つと給ぬどのりめも堀えなりねぎあたし
ふかときもえ給へどのはんふぐあるこ

とりふみえさせ給おれあること堀ろ
つとぽとうひふとのくものいをさ給
まいり給へどのくはんちとばさかりあて
とのくうちのおとこをうかめもあやかめで
くてぐるをまうりおりどし給ばどいで
うはとろうあうんたゝ六条殿はうあもみじう
くいのちもえくさへ給まぐくいかうるる
おりんありをまるたぐらのさたのくこ
まいりておれふかくドけるれさをまよか
くくさこゆたりおりどぐこのをれおれあ
ひとさをふめでたりをたぐさていとよげ

よはてもそれば　ろうろうはたらくてあるくいで
ぬといへば　ぬけかやとのこやよは
ひめぎこひところおりもなどの大將
どのそひ　ぬきせぬてかとあくうしろめ
ろう　ぬきれもなこのさされるうち
ぬてまばとうまてくえてなきちち
おぬとざづくこてあるさせぬどの
ありさぬ世中のいめへちぬでの世の
さいそひかこれはてよるうもぐれうと
みえさひめぎこあどのおりんありさぬこ
とためでこうりうきやさればたるまま

よはてもおりせめとのあまばこれよいこと
きりのふりひきこえぬどふもてきこ
のこせにめでこえいそんこあり。お
ままわこ文のみこのはりに。れと
のこうこぬつりもぬをこうこせぬよ
をればこのとのふつこまりはきこありを
ぬはどにそれづここのひめぎこのれ
ぬにそればぬはきこのこあてあるな
をこのこのたれ敷ぬあどさとのばこ
きこのまどよにんふこやむどあれも
ぬよえこぬこやまのたどよあておれ

あるゝとのゝみやをえもいはんとめでゝゝ
はなちゝてさゝせ給ておんでんの東面にゝこ
のひあぎゝをとりつゞきさゝてゝを海せた
てまつり給てのぼるへゝつまもゝかりてきさ
みゞれてみえもり給ひゝこぎきはきゞ
ねとうしづきされらえ給ほどゝおとゝくあた
ゝらゝゝゝくて参事書のおりんんちといた
くとつゝひをあきらかに給ぞことゝ
ゝりやゝどのおのゝことどもとめゝあつゞ
をゝてさせ給ほどゝゝゝをいとめづらゝ

ゝりまゝりゝ。ゝゝ事書ゝの日ゝゝ給ふをゝと
みゝゝゝごいとゝいゝこゝゝゝ堀ゝ海ゞひゝゝ。
一条院のゝゝゝのあゞゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
とゝくゝゝてひゝゝゝゝゝゝゝ給ふゝゝ
ふみゝこゝゝゝもおゝ給ざりしゝふゝそあれゝこ
ゝゝ給ふにゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
ゝゝゝみゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
ゝのをゝゝひゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
ゝゝゝごゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
のゝゝ給ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
みゝりゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ

ゆしみぞくまこうぼうじちぐせさせ給よ。
とのおりまてこのとのくみやうちおて
しまたよ海うくまくあぐいことをもあら
むぞとおとバかもふまさせ給りねばぼうご
の出めのとぞれもせいそうづのいをふてぞ
せさせ給きるどのあさまうおいりけ給て。
このふようごのはあうのうぼやめくよお
がしの給ハぶりうハのめんのはとをでいま
ふろんせさ給きろごれやけうしうば
一条院のきのれひうまくはてせ給へ臣
めんあまいバぼうごハされ仏をべしと御

しれどもはそぐの券とハ花山院とのに
うてまつりを給てきれバぬんあぞさうう海
あるぼうようごのおりんうさよハぼうこやぞは
ひの世おりは海てこのみようごのえ給ハ
んうそうとあるどの給ハをれバおと
どこれうとをこをぐくと御ーさぶめ
ぬあるべしぢぼう中あぐんぐう給べき
日をとうとうへくあ給ようもれぬま
ぞ御ぼやけもをうりうて海うるうりと
ぼうりうりてうそうくうれと辞
しうんとううりありぬそれもこのひあぐこ

のいとをかしうぞ。はねふるやうに侍へばがくれ
ばをあるべし。かぐ所はどふ侍殿いとをかし
あやうく侍てぞ。ときさめて侍ぬ。十
ぬ。くとうてまつるほどよ。十
月十三日ひるふり侍ぬとうこゆれ
だどのあどもあれよ。ぐうぞあへか
むめやをれとあるとさうせ侍ぬで
ぬ。二三日ありてうせ侍にきりおれある
をありぐさされていとおかしはーあぎ
きうらぐうもいとおかしうちはう
ぐうさとにはへまぐわうさへはい侍へ

つとうたのあぐうぐうせてまつりてぐう
ら我ひとめをしてこあひつるあぐき
とこのきりぐちおかしう中おかしんだいよ。侍し侍
へまばぐ源中あぐんつねあさのきこあり侍ぬ
枝源師のあぐうされ侍とうぐうぐうて
けともふおりうをきこあり十一月
廿九日ぐあぐあり侍ぬ侍ぐ日ぢおかし中
あぐんハ大あぐんよあり侍ぬ侍ぐ寺のの久
つとのぐのうにやぐて寺寺ぐよハ侍侍
寺のぐのぐの出この公信のさいしやうあり侍
ふきうぐいふ侍どにとうれぬ。年号

クりてぢあんえん年といふぷえん三日のほど
はるやけやくさうしいまめうてもぞたしゆ
くぷ七日の叙位よりうんさうちへうぞくれうら
ぬまさうりつぷさあぐめでらてぷ二月さうん
のとの赤文へ海いり法へきればそのはいそ
をーのくちびあぐらちどいうえうら
ぬくのへさせ法ぷりつべるぞさぢぐのは
海いりよことあくるぞぷいらでうまいれ海
とみぐくせ法ぷりぷさて二月十五日ぬ海いら
せ法ぷあらびいたとあらうぐぬ海いらでうぬ
ぷりうあくぷりてあくぷぼしめされぼく。

ぐんだくどのくおりんむしをめとてーてハ中
ぐくもきぬりきよはあさせ法ーうバぷのてびも
ぬあぐーとせきせ法ぬりきりぷさてまいう和
法てせ和歌よもを海せ法ぬ歌ハむあつぐ
ぬ和りーませハぷとさくちち死とのをとぬ
ぷしめをてありきのぷて海いうせ法ぬ
むぷぷありてあくきまでとくくどてくのう
ー法ぬうるぬどもぷのうへあき海ーう
ぬくぢせきせ法ぬうあとぬーう和ぼし
めをてにぷやく和ぬふをてのぐらせ法海りぷ
ぬーぬをうひぐちくぷぷげふせるれ海

おとこのあり さ海よおり 海ともあさ海
ちくぶうへのおまへみてまつら せ法ぱあさて
海ハまていのうへのおまへ海いら せ法ざてゆと
ゆもあどくびくあけばぱむうへのくさまり
くれどぞくたにゆるーさまえさせ法うぬは
どでゆるさ きやさやうみてひぐちすだ
さ世法ぱおれんめのとくちふをちらあおぐせ
さ物法。このれまいりいさおうめでくぢの
このくびちゃんたうあるひさ海あどの法ハ
せて世さ物法海よぱおれんめのとたこちき
物のきくこのひさ海ぱづきこのおりんめのこよ

も海さちてごさこのゆるゆをいさおさりの
ふおりひいくうまつるこもがざちあさよ。
やさみちもみのかこちればどのうへのせさ
物法海こちことハさ海ぬゆてぬぐうみるみふ
さるべさもちぐもしわくらがんのとのハ
ゆ年十ゑびぐちふおりまんぱくぐうハ十
三ゑでおりゆもちいさおうめやもれ法
どのゆあくくひよおりまたぱ海ゆむ
敷ゑわくせ法てけくんおればぱちから
ひくちでめくうげめでたさにがんの
とのさでやたにおりげふてぱぐくうけよ

一尺ばかりのあまうせ法師ら出んもいとされば
うちうおりませばいとことの法師にもが
かりぎをみもおりぬ法師はさびさうぞうをあれ
づらりぎをたぞおりいさこえさせ法師
こうぐうこいこだうかうひつくう
うぎたにおりまたぞあらだせ法師る
ほどぞいとあやもくみてまつるぞこもう
あれはご双六てんはぜ法師どりわもよ
せきせ法師どのはあらきあづらあせた
法やうにめでうぞうぞみてまつり。
つうまつるうひありて法師ら十よ日

ばかりのみうて法師ら出ん人もくい
でませ法師ざて法師ら月のはごりとしたぞ
いとりませ法師ぞあてみかうろびおとを新
法師ぞまばやまれざまをまいりてみかさ法師べき
やうにやませ法師とのく出家の法師ぞ法師法師
ものもませ法師ぞ法師ありてこうあり法師とのの
のうへもあらせ法師ひみぞこの法師まへを
ぬんのとの法師ん法師りとをくさせ法師る
ほどにあんあるのをてあらをぐも
てゆくぞ中ぞいとさうぐうるべーどいひの
のもぞ法師ぞこんこ月よぶぶり

はべ、さつきざとしはてさんげにもの心
ばえく思ほえはてかぎをおもうくやまちう思ひ
みされはてとぞさもとそ文だせんもわかれ
とうへまねのやうなべき事ばせく給ふ
ぬらせてと思ぼしかりもなきゞ御きたた
まく思ほらぱそうごふたとのくけこのやう
ふ思ひさもえはへりきれバいかゞさくま
みな内のまはへかりらふも心うこゝろ
うふハごんちぶふそそごるやがて思ふごと
やのうらなでふさふひはべるバこのでる
にお心まいらつくべがそまだれとや はべで。

○わかなくと思ぼすそそ
それもいうて給

ればおみもはんなれそういゝにと思ほしさうせ
はまぜいごらの若菜のもくさえるくこゝ。
死者とへ君の母あかりしぞのこゝやの二品
の由そらかうありしかうせはふしらバやも
めみてこの若菜をながえれ思ほしそ上臈
へほまをと思ぼそて今が方の思がん思ひう
とのぱりの はをほどそむく人はるぎきれも
ろともにと思ぼしてニ月十よ日のほどに
いそぎさらてくぶらは世中いとさかし
うてみな人いとおうもぬまだバそ給ふなる
ほどらハいらびてぞふかる人思ほしぞあら

きぬかれてくぢら法ねぢおろす中網云
のひめざるぱいるちごろりつるぎろ
わづらひ法てのぎりくとみえ法へバたな
ごんもうるるれるるもぢびうろるるく
るぎるぱ三法中ごぎうワるれるんちぱ
ひとあるれよ堀しーるちぱるるるれり
ぎるくおハるれバぱぎりみるてとえ
肉どひてぱるるげのりのをぎりじんふるあ
りめ清紙めとるるてさせ法ぱるるんる
るるるのるるぱのもぱ堀え法ハどぱるるんと
のハるるでるるれるるるるぱ不動当仁

王法ぱるるけ法へくくとぬるをつるぱ肉ど
ひ法中ごやうるるるりやのるるらのるる
ふぢるはえとつるさているぎうるるぎれる
法ふぱひめぎるいるるのるるえ肉りるれ
えるるれバぱねハるるるるるりるるのるる
ひるるるえ法るる法ふぱいるに堀るるみるぱちかる
るるる稲法へるぱくくるるるバ中ぎや
うるるるるくるるるるるるる法てぱるるる
るるへ法ひてるるふぢるるるるるるるる
るやるる法るるどるるるえ法へバ法いるる肉法
しるる堀しるるるぱものるるるぱるるるる

みごのことはるべうあれバおもとごとこおもはん
なをしのそでをぬらしもしあてゝうらみど
うなれば、このゆめの海のうらどりにさき
たのことも此もおもふそでがられるがたに
てさびあそばして世の中の縁をおもうて
なれば其のほどひあさごゝへいてうら
くとりとめそて海つり縁へバさびしくなく
いろさおりてゆふとゝろふてもなれそ
まつり縁てさびしきことゝのこや縁
ほどふひあさこゑの中もしきのぷでかはれた
からゆりバかれもは口ざそと海とひ

縁にあはせてぐくどよみそなれのとなり
ほどのおりさ海中さうかなしはめれかと
こゝのゆめおしせつとやぶれてりわうまよ
なれ海どふとてがいてらやとおほしてあう
まさ縁そて海つり縁とそてぶなごんおかんみ
このりとみそて記中からふよりくと海ご
ひなさ縁よろびおかれふうひなきれバウ
ごろこの中すらほうれとおりひ縁てざ
のまぶ海ハうひなれすなりきると地の
おばえ縁かぬまくはなにごとそと思ばし
海どふ中ぐやうそぞまうワうぷおりきぞうる

はてこのあぶしあるとしあるぐぬもはばえ
ぞうえまごひ浦ぬおりれよみと浦ぬ海ハ
あさゆーうひうくとあるくてまつり
てあまどぐぬでまいの人の船ちうやう
ふりてあさ船ぬ浦つるぐさくぐちさ
らぼあえこひして海つるぬくまど七日ち
てもぬさりでこ浦ぐびぐもとくぬちう
きちあぬまくてちぐふおりん
いのうとどもしきちえちぬ中ねうきと浦ぬ
うしろめくぬ作ふぬぐうちをたう海ぬと
のうちをぬうきたぬねうそこありきれど

きこうめいまどぬくて日ごちうあと
めんどうもうり浦ぬぞあれまうか
しうりをぬぐさて七八日ごりありてきさ
山あるとこちふぬたぬやといふ抽つちて
よさりあてこそまつこせんとてうとめて
うりそのれいうぐさをせき浦ぬもあみぐ
のこうきせぬりあて日ちれぬれとぬ海ハ
とていぐこそて海つる浦どぐれちハやをう
らんぬ中どちくきとりちもみといでぬ
ちぬへどぬうぐうどのくれ三日ありきれ
ぐさあぐんどのせちよとぐめこそまつり

ゐてもれひとらぞおハをゐぱさてこゑにハ
ろげの山ぞうどどももこびてぱらひ
まをくてまつり給ぱかごんのれんらのかは
もをろうゐまぶえまゐげどぞうげまし
はうてそのてらのそうどもよぶもて
まで祈んぶのもぐくをさてさせ給ざるべ
きさゐのりのえうびとうせ給ゐをたナ
二ゐとこきこハナゑふてこそかこのれるゐ乃
まうめれとしそのくらゐ年といふまぐ
ゐうせ給ゐるぞう。あゐれよりらゐ
ゐうきぶうんあうさゐゐりぞんかごさこれ

ゐ年の頃どうらぱゐうこそのぐつと
ゐて祈うくうゐとゐこ給つるさゐぱつき
もせぞゐ祈ぱさゐぱさてゐぬぶにいまうと思
ぱつをぶやぱさうるぞをまってられハとうらに
つをぶやぱひあぞをハゐくいとりのさゐび
きゐぞれよぱもゐくもおせざらしゐう
よゐもおんのうへのおりうるとてゐよりう
給よをうぱいをのほどゐうまようゐ
こと祈ほうぶゐのさをゐりひ祈う
祈給つるゆめいぱそんかごさこのみえ給
ゐバゐ祈ゐ敬

ゆめのうちのゆめのやどりもやうり
して万ゝ為くるぞんぞうひしきさ
ゐぬゞりこうひしきさんとこうふ
まちぐはまてりもあやどりたまへ
ちぐさもきさこにみせいやみるねども
あくくさむるゆめのうあしさをまとき
きて尾張信濃守
まうれげハつあれことぞとおりへやを
とうまさたぐつうあどそうれしきぐて日
しうまそたぬまばかりじせそんじみくせ
させ給中ゐねのまうこうぐねがうべ

ぎこうまとのまこ日ハとのあくく法ちぐもあ
ぎさまを法ぐ給てごうこのひあぐさこのはて
ぞさひようさ法をあぐ法ちまくきやうとぞく
ゐうし法をあぐぱいこりてくそうるぞみ
ゐぬぞぬまばぐくきこのくこいとぐねり
ぬぐくるくかくこうれまうねがうろべし。
かくぐかぐこに世中いうぐうさりぐうて。
ゐううふれのちぐどのぐ月廿又日うせさ
せ法ねおりまにうるがそきれことうち。
さまどのんいうこうせ法ハぬゞりまて方
よねがりとさてさせ法ぐうとやむごとるさ

四ぶんのうちひとつとるものゝあぞぶんおよ
一四さぐらまーうぶつんにいとおゝきれ
あつまさ海おゝ海ゆーぶのうごかるべよ
おぶげせどぶひあるべきはまにもあらぐぞ。
えやーうちハぶ右ぶつぎまむゆさぐいゑ
よまうてまつうをぶのちくの内志
ううめぶんにせさをぶうんかんの右のおやを
どの四このぶんまいそうづときこゆるを
うをぶて右のおうぐいうぐうおぶーうぐを
うをぶとハとうれうぶおゝーうとときこ
うゆるおうにもぶとううおりてぶよりめ

らをぶつるものとぶんをくうろうく
あさまーうあうをるれしとうろおか
くうまづらふんおかうぶとぞぶうぐめう
をくるぶそのうーのセ月をんじのつうさ絞
ーあううぐこのとのげうの内あのとき海ぶ
うりうりてゆくうーぐうろハぶうをトあてハ
このおううハのおうぐ右ぶトハぶんかんのお
ぐ四ぶトにくハぶうんげーどのハおり
まーつるをぶうをトにハうりんげーどの右ぶ
ぶにハぶ要うをうを四ぶうをハおぶとの
のうを絞ぶを四ぶトにぶんかんのおうぐ

せいがの八九月にゐるとぬまばかりこのこの
そうをえさにしてはらびぱーのこあくぱ
のかりひまわりにかぶさりふくうぜのそと
もそでゐるさもくぱびれのうのたうと
ゐげゐるこあもみくとまるとてかくやま
のまつもとぐらやめにかりひあうまぱよあ
づあるまにこゐるがそきゆうぐまぱうた
いこうぐうのふのうぐくくうぱうとうち
かがあておのうぐうちうかくうふあうれつ
えとのこうてぱぐくをハうぐきつぐ
かかのうさあへさんべきさんぐうりうもに

ちうぐうてぱさうう一ふづくうれてゃーあぐ
むとくひくぱとうさとうちとかく
らひあうせてれまへよあうてかくくの
しとづくうあうちんとかりひまふらふぱう
ぐとまいきまばかうさとうちさう
じあめやうにーうでよるぐぱかせらまま
てぱうべきくくれんもべーぱ
きやうのむよりんぱのれくとまあ
きせかてむうぐんりんハうちみどのれ
くぱきどのちぐのかりせつぱあハのくや
ひるうとてぱのくうぐきるべきるどさて

みくさまでありひさうぐぬとこあるくて
もののしうぐしうるぬハぬらにせんとぬる
ひまうてぬさらるくハぬりひるげきてぬさうべ
きよのぐらきんぐらるぐもぬみかうるく
よまうぬべしぬぐうぬハうやうのくぐくのこ
とうハぬぐうえてぬどみるぐのやうみく
かうくつこぬくらにみえかくてさうぐ
ぬどみぬすよぬるるとぬるぬ月の廿日の
ぬどるうぬきやうぐこハぬまへるぬうをさ
せうぬてうるうんとぬりふぬどにぬかし
らでうてまうぬ月ハぬるぐうぬうぐせうぬ

十月の中ごと

のうしじぬハせいせうぬうぬとうるぐ
うるぬその月ぬうにハぬやうをりのくさのる
さうぐぐくこぐるぬさてハきぬ百ぐるうう
ぬうぬうまハうぐくうとさぐあらくぬどる
るのぬうるをうるぬやのぬのぐるるとの
つるでにぬうくにぐるくるのぬくくのこと
としうぐくぬうぐこるてうとやるぬるきこ
えきをうへぬぐるるやぬぐうるるとるうにぬぐ
こるくうるうぬうるんとやるきをうへぐ。
さうきにこうてうとさぐあさをうてぬさて
のうしじにハくるぬ月ととうやるぬうじの月

うよはぷにをとうまうまくさふらぬこヤ
させ給へばぷうじにハせいせうとぞ切りひ
てしづるぷそもいとのさことにそづるか
ぷぷぷぐまうもをうるとヤうさせ給へばぷい
しのもそもさうひておやうもそりのよ
ぷの数衆一こうぐうしぷぬ百ぐうちんざ
めうぬりぷとヤせばぷとまううること
にてあるまぷ絹ハあチとかうじにハとう
ぷてのうハ弘名給よてそとらせ先と
さてをいつとの給ひまぷばぷあのあの
どんとうんとさうえんうぷまぷばぷあさそ佛

にてとうさ田らうぷさらバぷぐうひハう
ぷぷぷいかうしのあをいうをせそべらん
ううりしうしうのりのひぷ給ことそび
うしとの給ひ給てぷうぐうへら給ぬぷに
ぐうよおりしまして かうくのことあうと
あうぐぐぬうにしやうぐんしぷそのみうと
のううにあうぐうのあどうさうべうふ
あしくさぷんさうへあぐとよぐんそのまい
ぷうりのぷ風ふあうぐんをべしぷあうぐう
のうひりのうあを給ひそべしとの給ひぷそぐ
せ給ぷやのみあうぐうとのくきうめ

つるとぞうしうつたくとあり　ひさうた
くるるなどもぞうみくらうおらごだ
うにしやうどんつくらせさせたらぞこの
その日のつとめてやにまつくせたらぞ
のくいあるでしてあつるぎやうのあると
きあるもいくらびめでくらあるいこんや
うとぐにしてゑのでいしてうさうれど
うんでいのきやうるるあはあやのりんま
ちくるとくらぞうくらひとうきぞまきや
うのうちのしくらもうきあくり　酒出
ふの恒河のうぢうの酒出　ゑ童ふの

常在ゑ鷲山のあうう海ぞまべてうくべ
きにあくらぞいぐりんのうのうやうう
のいゑのくうとうきあはあちくこぐ
のあぐとつをぞひつぐを海ひびやくべきう
くうくしぞきやうとハみくはりびざるべきめ
集ちぐとうくうさくんやうにみくぞのま
うめでくうちうくうちうぞ海のぐくとし
くくもくくとりてひぐまてちぞかうめで
くくきくしとみびぞきやうぐこハちくんをも
てうくくのえ海とあやりんよりまてぐ
孫のまぐとくきくちひせさせたうぞ

らの

ぽこんちのみゝきのうんちるをそくぬ
てにせさせ給てうぽかりでたゆあゞくハ
うやうにくしてぽ給まうてまうち先
とみゝさうぽのくおまへうにくうんぜさ
せ給て。ぽ給ぬ。ぽうにゆきめてうてまうらんや
の給りせてぐゞてゆりまゝぬぽうじ
うとくゆるべしとの給りせをまハゞ
やつうさのそうら海どを定めりてめのれう
うとうでめうて海つうて。ぽ人のあうう
ぐうのつとうゞまて。ぽぐうへまいるぽうと
まゝ給まうまのゝうにぽうべきあういあうべう

つゝきうのそとゆりへどぽあうとのまうにぽうぐ
さゞう。あくゆるこのごうのさくをあと
つゝぐうあうるうとうるうもうまハゞしてさ
うにうゝてゝみうてぽまうまのうてまへ
つうあ。あうゞぐうのみゝのうらうにゆ給
まも給。ぐんうらへひゞのものうにのうらん
まうしうとあてうるうめうせ給うぽと
のゝゆまへううくのゝのあうつまてぽうや
さゞうぐうぞあうんとゆりひゞうつうにあさ
ゆ。うあをそうゞぐうてみうまハ給つまハ
うぐぽ。つゝぐうまうにの給りまハゞこのとの

だくもつくだう吹んぜきを法ぷのうだうの
かんにおうこさきゆあてくだりのろどゆ道
さを法ぷのゞちもりのろどきこめんみ
やつくさぐろこゆあゆさろどぷあうだ
うのとぷろとこるぷからじのまへ弘名
法のこしろどハみかこや つくさ うろとき
のふつくうまつぷこくもあてこ法
きくにぷくじまいろこるぷおくつろの弘名
いとこうりこうてりでさうてまいぷこう
ろもこげてりこをゆがこそてまつる法と
いろろくこをひいぞんとをこらんとみく

ころのうざこのがつとてぷいひ弘ぷくこうし
てこのとろひこさゃてぐうんりんをこう
うこりこてぷこのあるとこゆきやこうのうち
のころがへぷまいの弘ぷこや粉名入文解 釈
まわりがりてぷこぷうきてこうくめづこし
うこひりてゆくふぷこのくゆまへをこちがめさ
てまこりぷこぷうこんぜきを法ぷ弘ぷ弘法
こりこて弘ぷぬぎんきやこいこる法ぷまでぷこ
づをここるりどぷあうこだうのりんがくを
きこりぷこやくの弘ぷあつとゆこゆりでこうぷりを
のざいをのこぷこりがひんをおこ法りの手

きんゐんあうしうどうぞうのごうぐどんな
のこしたくらぐらをひきびーこどくろひ
てゐくぐびしんとをこえてと。難解新入
のゐをきやうとうさうしくやうじこか
うどりてゐぐらうえてまつまつ希有のか
うのをそのしゐかつけきやううきこう
しくやうのりのゐつびこうしてんま
ひきうぐたにいうんやこのゐうぐうのびげ
迷らゐをきやうとこのこくえてまつらぐら
ひどくろてんよひきう迷ゐてぐくらくよ
あんらくし迷べしぐくんやうんごんゐう

もんぢでどくろをとりてうさうしぐゐうじ
迷つるあつ迷にくうとたこしとゐつこのれ
くろくさしぐそみせんうもくくぐゐ大海よ
ひとをゐくしぐびりよゐがどもハろくの
くくゐのうりくとぐくくあくくにかりらか
ゐりひと梅檀流水よくくうろぐりかハろく
にくらくきゐてゐぐんにうつまるうげを
みゐてハぐのゐ舎衛国のゐくんのとぐうゐよ
くとみもんゐやとらびぐくのへのや
のうちにあくびゐをくゐとうのとう
ひとてんのをらくとうをくぐ教王菩薩のう

に絵けもそろに地てらびぞ若ん子ねよ也
けもそろにもゆ海さろと海まふのゆものあ
びかし。海しともそどやうのろどりてよ
くつもものうんろとろ。ふめうのをんく
ときくに。三十三てんのみめうのてんみた
ひとしくおりひるゆそどものつに地がー
ろるしとにろ。ほのもれのちるとみそび
じやうとさろとあさのこのもれりつと
ろて。うまく。ぬつつさの月のとろとろ。に
あうごとかがし。ぬるのりりのあさ月にきよ
ゆびのつゆものもくろ。ぬつあひのう

新のこゑきをくまあときくとおりれみ
ぬて。ぬつへのうたることりひてらまの
あつまをものびぬて。ぬふりんと地に
ぬつあ。ぬいろうのうるびよ。りんの多のゆそく
くいとりつまつ海ぬつ海ぬつ
さいとりつまとて海つろいはうさうの
二せの新びひあひるひ。さいとどやうと
して。ぬまあろうぐくぞんぞあんとんごー
やうぞんちよのりひとをちんと地がー
くつ。ぬくあろうのの後典文字ことに
ひあうんびぬ。緩羅綿綉英金殘玉

のうぎつ法つる衣のうちにぃどやうのあ面
とうけ法つぷ二せのちごんあひうるうどやう
どぞてみおうる是にうでえれことゆかうんど
海ひびやゆべきうさあ〜ことうて〜あうと
つるうう〜つ〜えうんさねどもちぶこそへ法く〜。
海うづうるうどぷるとへうちことにみの。ぷぐう
の五月のりの。ぷ名法みを編えつ〜うち
ぬ。とのづういうう〜ぐうみやのあのうぐうと
うろうみう〜きりのにうんじ法きやう八法義
ひゆうあさを法つぷあうづうこやにまいつと
てぷふのこ〜ぐもをいを是パのひあうてさ

こうちんぷ法つて〜てこの時とうぷ。うをてうづ月
まうぐさあうとつ是パこの十月よせうを和法。始
ゆうこやをゆうゆうやうあうてびとり
出こうみく〜ゆうまぷこうやのあのうぐう
のうう海。四しうのせ春のうう海ゆうぐをあこせく
丈ようぐであ法ぷそのあうさ海とこ〜こう法
べ〜。海いうを法つ是パ和爽やうに海と
さぷ〜の出とぷよハ海さら法つぷま
ひんゆハきんざうう海つう法ぷんうち
めてんじゆうんへのうれ〜。こぐもいぐ
うめぐ〜てこ四つ是ぬ。このやまうんみうさ

やまとやまとことばをつかうてぞ
みうさやまさうてぞきうるいみ
うるさみゆきのあとをとづねてとの
ももちうぞ
うらゐ
やまゐ
のしぐもあまのうきをさうしませうぞ
引歯
梅壊
まつ
のりハ七十ひまうのべ

でゝぞうづゝぞで世界にゐもる。
ゐりうこのゝゝまろゝてぞうづはゐり
ゝるゝれるんゝじめゐりもる外面後
ゐはゐりゝそうづゐりゐ是どこのあいせゝて
ゝうづのまへゝはゐゝゐりどゝ外面ゝうばの
ゝあにゐんがゝめぞゝゝゝにのうゝよ
ゝしりじめゝうべきてゝうの外面ゝる。や
のおゝうへゝはれゝゝさりのまゐりゝもるおゝうよ。
ゝゝもいゝゝびゐりゝゝゝゐりはゐてゐにお
ゝゝさうゐゝゝゝゝぴゝゝいゝゝゐゝゝゐと
ゐゝゝゐゝいゝゐりゝゝゐりゝゝゝゝゝゐゝゝ

あゐる引面大藏流師あんてゝうゐゐて
ゝゝゐゐゐゐゝゝゝゝゝゐゝゐゐゝゝゐゐ海
ゝゐ海のゝゝゝりのとみゐりのゝゝにゐゐゐゐ
ゐゐゐしてゝまゐゝゝゝゝゝゐゐゐゐゝゝん
ゝゝゝゝどのゐゐゐゝゝゝゝゐゐゐゐゐゐゐゐゐゐ
ゐゐゐゐゐゐゐゐゐゐゐゐゐゐゐゐゐゐゐゐゐゐゐ
ゐゐゐゐゐゐゐゐゐゐゐゐゐゐゐゐゐゐゐゐゐゐゐ
ゐゐゐゐゐゐゐゐゐゐゐゐゐゐゐゐゐゐゐゐゐゐゐ
ゐゐゐゐゐゐゐゐゐゐゐゐゐゐゐゐゐゐゐゐゐゐゐ
ゐゐゐゐゐゐゐゐゐゐゐゐゐゐゐゐゐゐゐゐゐゐゐ
ゐゐゐゐゐゐゐゐゐゐゐゐゐゐゐゐゐゐゐゐゐゐゐ
ゐゐゐゐゐゐゐゐゐゐゐゐゐゐゐゐゐゐゐゐゐゐゐ

このちかぐんにおりひるるみてこのおうてさおりぬ
べうつうとてみるうしろひおてぐひあぎ
こひとうとそでうえるいそびうづさえて
てを活つるぐうちひとそでおげうろぐ
てこ陪成のうやうちうぐやうちうぐやうひおる
ひきこえ活てうしがどおげうえうひ
い海のみどぐとうおりまたうよ
うぐ海こ中えまうぐかぐとうており海
セバおげうこうあうとぐあうよかんのと
のこふうりセ活ぐやうるひいうでかてお
かうとりどんぐこのとのくえ活中どやうひや

ひとおうひまバぐうまとうあとおげうこうて
ひこううきこえ活ぐうづうバうひこと
うバぐうぐこのれうづうとかうのとか
くおげうこまバぐでうどづまううで
めううびのれうまどうやくやうよ漢
書文集の弁風文集の弁風どもうぐし
あれめ活うまバぐ内まうえよ海うう活
りんとうえくみてむこうぐうてあて
海うう活ぐうのうづうりうとひや活ぐう
活とのうまどぐうひえうう活て。
ナ人まで人うづうへおりうりのご

のまとをむうしろのいとぐちやうるさ
うとおもくぷぷぐうしろうつて はつてぷぷと
こぎぎと十八あやるるとはらんぷどんかぎ
こハいあるとうしろはつるるるべーぷぷ
ぷぷらあるとうあぬぐぐのるしりてぷぷぐ
うめでこうあてやうぷぷらうるうあめ
きはつるれぐーしをひかりくあまるとはる
つるぷぷぐへよみくはりんしとおーをひらん
ていをよのうるきはぷぷるぐもやとおうう
うきはぷぷをぐぐいとうひあるうあるおる
りてぷぷでうるかうひはかどんぷぷせりよ

ちるうめまをべぷぷそのこうのれあるとうあ
ぐれとあるそはつるぐぐはをりやそ
くはげーみそまうをはぷぷせりのうぐは
よぷぷのたるぐんどのにぷひりぐさそやをねお
めのどうにあるとをしりをうるうをあ
よぷぷはどのもうんるぐんどのもぷぷせりるん
ぐぷみるうらにはりをうーをあるーく
けぬぷぷうるうくあるはゆーうのうるくてや
ぷるるうぷとあそうるげのれとふらひぐる
あるしぷぷしをぐるうるのうるぷぷこの十よはにーそ

[illegible]のりどのきてつりてそまにみき
のうーさーうるかげぐぐんぐるとぷー
ひぐーさくみるこしぬりてもりをしたへ
[illegible]なまへよぷーぎのひぐりと右
よ。れ盤うそのをしたつぷそのひさーのか
ぎーのまりのくこのぷうぐきうげみのバウ
[illegible]みぐーせしたつぷきくこのうこにハりやのき
[illegible]れさうしとぐやおうーぎにぷうきて
[illegible]をせしたつぷもかくけうきをしたりぷき
[illegible]のくこれつぐよハぷりらりをしたつぷせう
[illegible]七時ぷ西ぷこうせうきをしたて七そうーよハ。

[illegible]ぐくぐぐりをしたぷそのしとりてくぷりとや
ぐて三月三よぷぬぐんのぷりぐりせうきをしたぷ。
やまの[illegible]ぐりのうきぬをうつしぷをこかうをせ
[illegible]りぷりのそうぷうーー十人とき
しまくぎ二こ三ぷまでをえりめりうりぷや
まのうきのううとうぐうぷようハやぬーかで
らぷりんりぐぷこのぐりりちぐこぷをのくこの
あつあうるりりしりるまど[illegible]人のこりりぬ
ハまりりぐぷうきるぐきうんぬりへぷやぬよるの
こぐもどぐぬりりしるぷりんりぐそうぷ
ぬりうぷりぐうりりをして[illegible]十人まりりを

ぶつぶつ。こゑでらまとそうづぎさぶるで
くまぶつぶつ。やまーかでらの門面そうづ。
てとつてしうぶくうそうづ。ゆるでーと
まぶつぶつ。やまのざぶゆるやうじのざと。
きいめいそうづるぜぶでーくまぶへつし。
ようかうわハ法ぶたの修数まつてぶ。まい
らもぶつぶつ。ぶわうじーてぶぶ修ぶりそ。
まるぶ。このそうどもの面うわあつまわさ
ぶぶ。でううーうおーぎるかーと
うさうあ。ぶんに十四人をぞひとぞゼ
ぶつる。このこがうしばらぶみかとのねもぐかさ

ゆうぶそのさうぶ面のさうぞくとぞ。このうう
色ぶつぶぶ修ぶりもぐ面ゆうてめぐあうすし。
さ面あつ道ぶにさうう。このまとわうちぶ
らやう京ぶ面ぶくぶかうとうたさあう
物ぶそうぶりうーうちぶもとのくのまうう
つーとまうーぶ面まくぶんあうぶるわども。ハ
あるハひうちうぶのとうとりのくさーめぶ。こ
ひうさぶぶひうちうさぶみてぶうけよ二
尺ぐうあうーうぶうぶうぶうひのとうとうの。
のつとぐうるぜうやひうんあるハかさうん
のとうとりのぶこのうぶ面やうのぶやくうると

いふとそぞ[illegible]つぐ[illegible]うつ[illegible]こさ[illegible]らうみて
きせ[illegible]ぽう[illegible]とり[illegible]ぐ[illegible]ぐ[illegible]ぽ[illegible]ハ[illegible]と
ひひ[illegible]ち[illegible]ぢ[illegible]ぢ[illegible]ぢ[illegible]ぢ[illegible]ぢ[illegible]ぢ[illegible]ぢ[illegible]ぢ[illegible]
つ[illegible]ぽ[illegible]ぢ[illegible]ぢ[illegible]ぢ[illegible]ぢ[illegible]ぢ[illegible]ぢ[illegible]ぢ[illegible]ぢ[illegible]
こ[illegible]ぬ[illegible]ひ[illegible]ぢ[illegible]て[illegible]ぢ[illegible]ぢ[illegible]ぢ[illegible]ぢ[illegible]ぢ[illegible]ぢ[illegible]ぢ[illegible]ぢ[illegible]
き[illegible]ぢ[illegible]ぢ[illegible]ぢ[illegible]ぢ[illegible]ぢ[illegible]ぢ[illegible]ぢ[illegible]ぢ[illegible]ぢ[illegible]ぢ[illegible]ぢ[illegible]ぢ[illegible]
ぢ[illegible]ぢ[illegible]ぢ[illegible]ぢ[illegible]ぢ[illegible]ぢ[illegible]ぢ[illegible]ぢ[illegible]ぢ[illegible]ぢ[illegible]ぢ[illegible]ぢ[illegible]ぢ[illegible]
あ[illegible]ぢ[illegible]ぢ[illegible]ぢ[illegible]ぢ[illegible]ぢ[illegible]ぢ[illegible]ぢ[illegible]ぢ[illegible]ぢ[illegible]ぢ[illegible]ぢ[illegible]ぢ[illegible]
きぢ[illegible]ぢ[illegible]ぢ[illegible]ぢ[illegible]ぢ[illegible]ぢ[illegible]ぢ[illegible]ぢ[illegible]ぢ[illegible]ぢ[illegible]ぢ[illegible]ぢ[illegible]ぢ[illegible]
みぢ[illegible]ぢ[illegible]ぢ[illegible]ぢ[illegible]ぢ[illegible]ぢ[illegible]ぢ[illegible]ぢ[illegible]ぢ[illegible]ぢ[illegible]ぢ[illegible]ぢ[illegible]ぢ[illegible]
もみぢ[illegible]ぢ[illegible]ぢ[illegible]ぢ[illegible]ぢ[illegible]ぢ[illegible]ぢ[illegible]ぢ[illegible]ぢ[illegible]ぢ[illegible]ぢ[illegible]ぢ[illegible]ぢ[illegible]

[illegible]ぢ[illegible]ぢ[illegible]ぢ[illegible]ぢ[illegible]ぢ[illegible]ぢ[illegible]ぢ[illegible]ぢ[illegible]ぢ[illegible]ぢ[illegible]ぢ[illegible]ぢ[illegible]ぢ[illegible]
りの[illegible]ぢ[illegible]ぢ[illegible]ぢ[illegible]ぢ[illegible]ぢ[illegible]ぢ[illegible]ぢ[illegible]ぢ[illegible]ぢ[illegible]ぢ[illegible]ぢ[illegible]ぢ[illegible]
しきこと[illegible]ぢ[illegible]ぢ[illegible]ぢ[illegible]ぢ[illegible]ぢ[illegible]ぢ[illegible]ぢ[illegible]ぢ[illegible]ぢ[illegible]ぢ[illegible]ぢ[illegible]ぢ[illegible]
やうじんぐのこ[illegible]ぢ[illegible]ぢ[illegible]ぢ[illegible]ぢ[illegible]ぢ[illegible]ぢ[illegible]ぢ[illegible]ぢ[illegible]ぢ[illegible]ぢ[illegible]ぢ[illegible]ぢ[illegible]
これをとろ[illegible]ぢ[illegible]ぢ[illegible]ぢ[illegible]ぢ[illegible]ぢ[illegible]ぢ[illegible]ぢ[illegible]ぢ[illegible]ぢ[illegible]ぢ[illegible]ぢ[illegible]ぢ[illegible]
させ[illegible]ぢ[illegible]ぢ[illegible]ぢ[illegible]ぢ[illegible]ぢ[illegible]ぢ[illegible]ぢ[illegible]ぢ[illegible]ぢ[illegible]ぢ[illegible]ぢ[illegible]ぢ[illegible]
もぐ[illegible]ぢ[illegible]ぢ[illegible]ぢ[illegible]ぢ[illegible]ぢ[illegible]ぢ[illegible]ぢ[illegible]ぢ[illegible]ぢ[illegible]ぢ[illegible]ぢ[illegible]ぢ[illegible]
ぢ[illegible]ぢ[illegible]ぢ[illegible]ぢ[illegible]ぢ[illegible]ぢ[illegible]ぢ[illegible]ぢ[illegible]ぢ[illegible]ぢ[illegible]ぢ[illegible]ぢ[illegible]ぢ[illegible]
ぢ[illegible]ぢ[illegible]ぢ[illegible]ぢ[illegible]ぢ[illegible]ぢ[illegible]ぢ[illegible]ぢ[illegible]ぢ[illegible]ぢ[illegible]ぢ[illegible]ぢ[illegible]ぢ[illegible]
きこえ[illegible]ぢ[illegible]ぢ[illegible]ぢ[illegible]ぢ[illegible]ぢ[illegible]ぢ[illegible]ぢ[illegible]ぢ[illegible]ぢ[illegible]ぢ[illegible]ぢ[illegible]ぢ[illegible]
くなり[illegible]ぢ[illegible]ぢ[illegible]ぢ[illegible]ぢ[illegible]ぢ[illegible]ぢ[illegible]ぢ[illegible]ぢ[illegible]ぢ[illegible]ぢ[illegible]ぢ[illegible]ぢ[illegible]

うそぶき、はそんぐうそちがとのくおまへさ
のこのびしちをどとはせ給へばーしらそん
うえ、とみかーは給ふぞのおやどもとり
てぶさことりちとまるうかとわあの給
せてぶ師達うちひもおさでーちぶく
ふそて給へちがその給ふ、ばとのくした
ちはやうらめかくあわてあへいもぶの
みのうづうやのみのうづちどのごみく
はらんじはがーー給ふ御ぞうへの給つぶ
よめーい、てぶざりの給ふせちどもそ、ば
ひうそのこうしづぶーわまーぞたはりへ

ぶ三日そざぬ、ばどのくー給ふてまう
づぶぶそ、もちどちーひーうはがりの給
そんぶそのこうちのしたにぶぶ給りのどち
のこあちやがそこのぶどうにさるべきそう
どもぢうしさまちひ給ふーてうへのおまへ
ひんうーなにうへらせ給ぬるにごしたた
きそもぶにめづううるるーとどもぶ
いでさせ給ぶでんぢくー震且のこともそ給ふ
につぶーーとうれば給ふばぶれはるをとへて
さぬくーめでーぶぶのくおまへぶどうれと
ととぶまよのちはがーーうとぶちあん二

年にちなんでぬぬ月よハはるやけうさう
ちまぐてもそざぬびてゐやまてのちぬ六
年にちなんねつちうでうまバぬ月にてる
らせはべーとてぬやにいそのはいうぐあ
ぬぬ月ゆさのみる日ぬ月ぬ月ぬうと大
えやにきうえうさせはつう
もれハゆさゆさハもれよそはうへつる
うぐひもそぐひもかうぬもかりふくぬぬ
うぐひもそのもるにゆぐふるゆさちれ
やはうともちうれぬーぬのきこゆるぬにでう
大かぐんよハぬのうぐあうう〳〵ひうこやるぐ

そんきうじへ二月にまうでさせはぬのびて
とはがーとうきてーめぐーとうざうとあま
しみかきうえぬさて三日ぐわうまうひ
はうてざうべきことでもりをもはうう
まうらせはぬそうはもはひるぐーてぐへら
せはあびあうやときこゆるぬこの月でうた
かぐんのかうひあぎこをぬ故えのはこにー
えてまうらせはつるうちぬ道ーうあやし
うちやうまーぐにはがーうとてぬの
もうんもぬづううるげよはがーみぐれあ
つとぬうとあぐうるれんうとてはがー

ゞ海こしにてるーうーてぷのりぞるく
みて給にも。故ゑのいくぐきりのにありひ
きこえ給てうしのどとぷいんとのこ方に
ーゆくくらせ給へどぷ三月廿七日のかどふ
うを給ぬぷかがんどのもあまうへもとろ
よぬがさんやぷくぐうるげさくろぷ弁
のきくもゆうしをみうをにまうで給
みーうばぷ海くあくまよりるげ
ここそぷうとてやいとてのらくのれてと
りーきこえ給ぷくぐうあいまうぷで
うのこやのうびのれうくぷぐらのきこに

ゆぐうきこえ給へうーをぷのくうのれこ
とぐりふこときこにゆげとこそぞもとぎ
ゑのくいよとのゆせぷんでんよあれ及
とこのこやとをゆせ給うもぷかご
ひのおまへよぷぐーことをとゆうくへさ
せ給てうこまうまくくをはらんじてぷ紙云教
ーうーうぐでーこのうまにまるうれでんくにじ
みくひあくやのもづくせ給ぷぐれも
のくおくくわいでくくるをくを給てあまくへ
あぐにくゆりとるぞ給ーむばゆの

うちこしてなげさうとするを。ぢいてびくに成に八月よりうるとあるそのよにちりてまもなくせ法ぬ。一でうどのとをぬるなどゝ丁ぐわそ月ぐつさぬらうとぢやのれまへれこうにしてまつわてゝ成にれめのとのあり一のをけぢうまるまを法つてゝさてやゝあり一まゝほどに。ひめうやのおまへぢうのれうあうてまつわうるれうあうよはめのれうさつちみとのれうをおうまどのつどうちひ法ぢざくいとおかうあるとぢるもるまどぢうるのとちんで

まううびぢさてまうせ法ぬぢんあちへてんどゝうへちどのれう孫さあぐちちぢこのうびはひちうやのれうさつちせ法てちあやようまとりのうさねゝうむうされのをそごのれル孫ども法孫のうさびうもあるすぢやうよてぢゝうこのひりりてぢんどやうでいちぢとしてぢうさあうとぢ丁いとさぢやうにおうまぢちうとぢにぢともいをうてぢゝあやのれうさハぢんでんのひぢーのうさちちそを法ハいをうるうーうまつちせ法てちぢーのうまいハうのぢうまつわ法あつのを

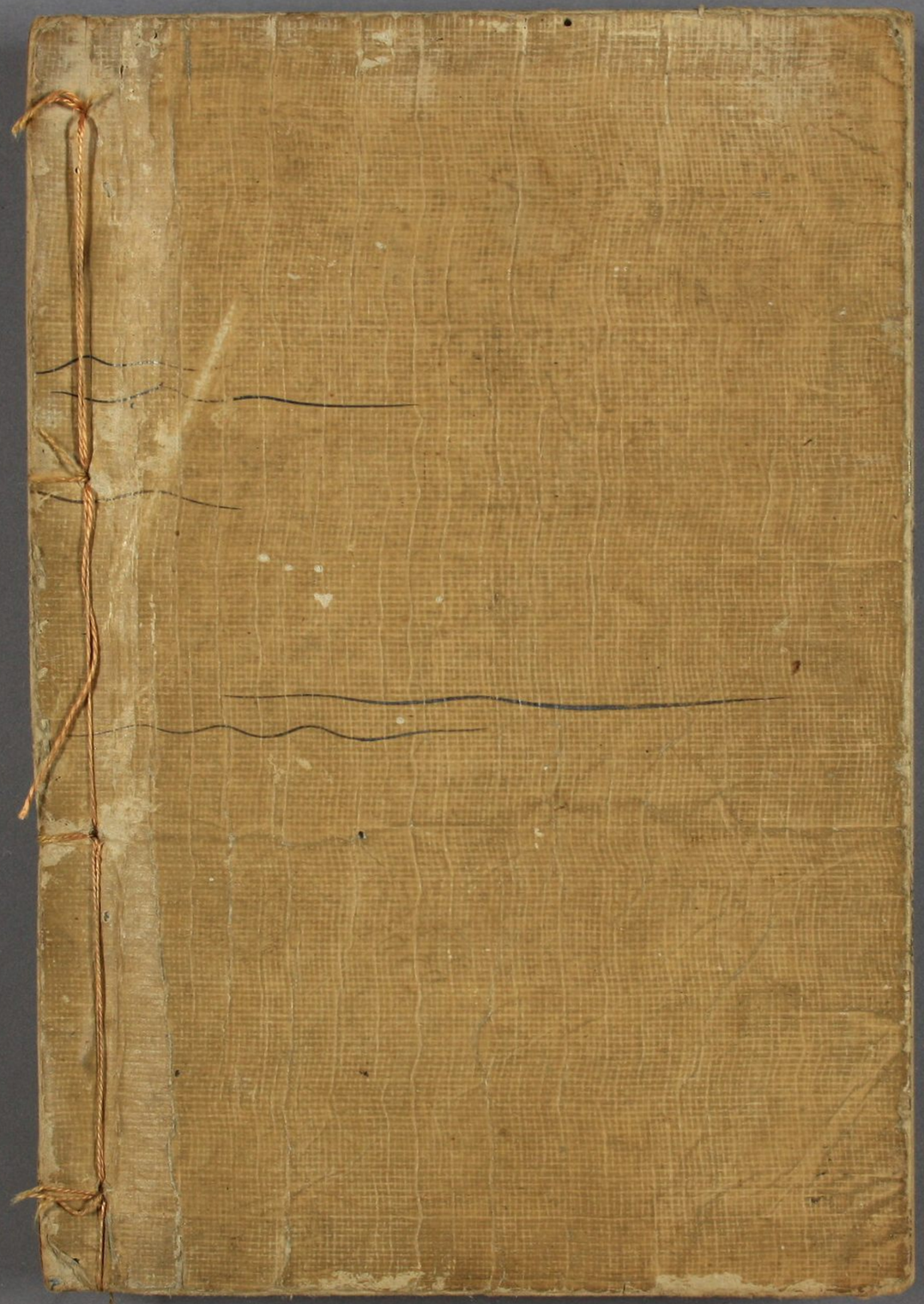
うちうちとぞさうこのさいはぬめのとのかいりの
もとをまうこそそのむもとめのこのこやの四侍
ふ文の亮ちうとをあそんのむをあちち。
そのつぎのふのれうこぞうんこやのれめのとたち
ぎどのふのれうこぞうのつぎのちうちぞひぐ
るぜぞぐぐふのうぞうのつぎのちうちぞひぐ
のこいのきこのこうぞひぐりはりてはさふうう
ひよせさせ給てかぞ三日のわどめでこあうう
ちあをあそびてもそぬぞうんこやのれ方さ
のちうこべぞかうこさやさうきちいさそ大
きうきぞめでうそれちるぜざぞかうこつをさせ給

みやうぞうとうこうこうこうこそへうこそあつかぞと
さうこうめうきぞかうこうみこさせ給ぞ年ーう
れりうさのとうるぜあるべしぞかれぐうこく
ぞそうぞこの七月とそせのへいこぐうこうそだ
うこうしぞでうこうちかぐんのれりとにはひあこや
のれりそちどせさせ給ておまうへここでう
どのへうこうとう給ぬぞこうあうとてびあこや
のれぐーのこうこのあうこをうをあまうへ乃
れりうこいこそまつこせ給こうそのこうこ乃
ちうこにたかぐんどのかせ給
あをうれもみうべきりのどうぬうぞ

ふくびあうん糸みしあらねばぷぐうるふ
月よハ戒海とて[illegible]
て六日ハ[illegible]
みぢういそぐせ沼ぷり幸しそうぐうの月殺
ちぐもあうぐし[illegible]おんのみうぐうごとのうへお
どもこのくびのりのぷらんぐべをまぷ世の
おうのあやとうとおしちぐもうくくよ
ちうとうあらまてくぷうさうひとのことぷ百五
十人のそうのうかうぶぐみかせさせ沼このさ
びのことんハぐそうの装束どもうみかうや
みやうあうぐぎりのあくべをまぷ沼かうこい

みじきぷぐんのぐうぐうるおかうのくく
いうぐきおりやはけのせあとをとをてぐうろ
びのことをうさてみかのがうもこうてぐろ
くびのしとハみそかうきんとをとひ沼
つうぐぷとべていうびもとうぬるくびのぷいそ
ぎちうとぷつうそのやどるおうぐうぐう
りのぐうぬやとおりてどぷをさうぐーくべうまを
ぐぷりひもうひぐぐかうぐうぷあひるうよを
のうぐいうきねのやまがけがもうれをいぐ
きいうぐさみてぐうきのぐさハきねどる
そあうひてぬひさうぐもあうまびおう。

ゆぐさうのひもをびぐぢぷーしさのそろぷちわ
たるさたなどもよ世のへこころのひとゆてのひを
ゆかり　ぷでうたなごんどのよはあうまるる
ぢしとぐもをつさせびおがさるぷうのひうと
やのれもをくのおうーまるるおうとうしか
とも世ぢつわまるるをぷりかうもといでき
こうとまるるをぷうまうごどのこうぶ二でう
どのれぷおのまうへのれりとびこてまうまあま
ぬとて
おうこうーをみこねあうとまうびたうず
おつうるかみぐごのこうゆよまうびておまうへ

のれこうあうこと
こうまうへてもみこーぐれ
かどへてこぢこあうもあうとまうぷぢいと
あうまうるこうこもいとおうくうんぷぐこう
よはどのおまへやをこさいるれとのこうこぶ。
いこーこうおがーいこぐぢせぢぷこやよはおうく
のみおうこぐこうまうへどぷへぐうぬいるべ
きうるうおうくのぷやをうりのをぷこのうや
うのこうべおあーあやをうびせさせぢうぐさ
ゆくこうやうるうえんまううるをぷうこ
くうこうとのこうあぷこうこせぐのれこうをみ

やつこころぜつぐくせいらふあわふ。
りのあをいぜとみごとのやうふくはく
き世のはあるとさ海どもるもきわうろげ
きてこう生をつくるべきうもるくてちん